発信人 日本国特許庁(国際予備審査機関)

出願人代理人 田澤 博昭	
様	*
あで名 〒100-0013 東京都千代田区職が関3丁目7番1号 大東ビル7階	PCT見解書 (法第 13 条) [PCT規則 66]
	発送日 (日.月.年) 1 ク フ 2005
出願人又は代理人 の書類記号 KP2718	応答期間 上記発送日から 2 月 /日 以内
国際出願番号 PCT/JP03/12367 国際出顧日 (日.月.年) 2	優先日 (日.月.年)
国際特許分類 (IPC) IntCl. A61B17/22, 17/32	
出願人 (氏名又は名称) ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社	
1. これは、この国際予備審査機関が作成した1	回目の見解書である。
 この見解書は、次の内容を含む。 I ♥ 見解の基礎 	
Ⅱ 『 優先権	
Ⅲ 「新規性、進歩性又は産業上の利用可能性	性についての見解の不作成
IV 「発明の単一性の欠如	
V ★ 法第 13 条 (PCT規則 66.2(a)(ii)) に それを裏付けるための文献及び説明	こ規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、
でれを扱行けるための文献及び説明 VI ▽ ある種の引用文献	

「個際出願に対する意見 国際出版に対する意見 1. 出願人は、この見解書に応答することが求められる。 いっ? 上記応答期間を参照すること。この応答期間に間に合わないときは、出願人は、法第 13 条 (PCT規則 6. (金) (金) (足)をするとおり、その期間の経過前に国際予備審査機関に期間延長を請求することができる。

65.2(d))に規定するとおり、その期間の経過前に国際予備審査機関に期間延長を請求することができる。 ただし、期間延長が認められるのは合理的な理由があり、かつスケジュールに余裕がある場合に限られる ことに注意されたい。 2 送第 13 条 (PCT展則 66.3) の規定に従い、答弁審及び必要な場合には、補正書を提出する。補正書の

どのように? 独第13条(PCT規則68.3)の規定に従い、答弁書及び必要な場合には、補正書を提出する。補正書 様式及び言語については、法施行規則第62条(PCT規則68.8及び66.9)を参照すること。 なお 補正書を提出する追加の機会については、法施行規則第61条の2(PCT規則6.0名参照すること。

福止音を使出する追加の帳気については、法施行取利用のは乗びるにドレース規(の、4)を参照すること。 補正書及び/又は答弁書の審査官による考慮については、PCT規則(66.4の2を参照すること。審査官との非公式の連絡については、PCT規則(66.6を参照すること。

応答がないときは、国際予備審査報告は、この見解書に基づき作成される。

国際予備審査報告作成の最終期限は、PCT規則69.2の規定により 26.01.2006 である。

	名称及びあて先	特許庁審査官 (権限のある職員)	3E 9726
	日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915	岡崎 克彦	****
Ì	東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	電話番号 03-3581-1101 💆	1棟 3346

国際出願の不備

I. 見解の基礎

1.		F記の出願書類に基づいて作成され; 差替え用紙は、この見解書において		6条 (PCT14条) の規定に基づく命令に応答するた とする。)
V	出願時の国際	際出願書類		
г	明細書	第	ページ、	出願時に提出されたもの
	明細書			国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
	明細書			付の書簡と共に提出されたもの
г	請求の範囲	第	項、	出願時に提出されたもの
	請求の範囲	第	項、	PCT19 条の規定に基づき補正されたもの
	請求の範囲	第	項、	国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
	請求の範囲	第	項、	付の書簡と共に提出されたもの
Г	図面	第^		
	図面			国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
	図面	第^	ージ/図、	付の書簡と共に提出されたもの
Г	明細書の配列	列表の部分 第	_ページ、	出願時に提出されたもの
				国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
	明細書の配列	刊表の部分 第	_ページ、	付の書簡と共に提出されたもの
3.	上記の書類は、 国際調査規 国際開放場 国際出願に この国際出願に この国際出願に この国際に 出願後に	出願に含まれる書面による配列表 出願と共に提出された磁気ディスク この国際予備審査(または調査)	語である。 (b) にいう 55.2 またに と含んでおり による配列 機関に提出	開訳文の言語 155.3 にいう翻訳文の言語 り、次の配列表に基づき見解書を作成した。 表 された書面による配列表
ĺ	出願後に書の提出	があった る配列表に記載した配列と磁気ディ	における国	された歴気ディスクによる配列表 国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述 6配列表に記録した配列が同一である旨の陳述書の提出
4		『記の書類が削除された。		
		第		
Г		第		
Г	図面	図面の第		ページ/図
5. Г		、補充棚に示したように、補正が出 れなかったものとして作成した。(!		ける開示の範囲を越えてされたものと認められるので、 70.2(c))

2. 文献及び説明

文献1:IP 2003-88530 A (中尾 政之)

文献2: IP 05-56984 A (株式会社ニッショー)

文献3:日本国実用新案登録出願3-5635号(日本国実用新案登録出願公開4-88919号)の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロ フィルム (アンギオーメド アクチエングゼルシヤフト)

文献4: JP 08-238245 A (株式会社貝印刃物開発センター) 文献5:WO 94/10919 A1(SCIMED LIFE SYSTEMS.

INC.)

請求の範囲1、4、6、7は、文献1及び文献2により進歩性を有しない。 文献1の治療器具に、同一の技術分野に属する文献2に記載された回転カッターの表 面に、多数の独立した微小な切刃をカッターの母材と一体に形成する技術を適用するこ とは、当業者にとって容易である。

請求の範囲2、15は、文献1、2及び文献3により進歩性を有しない。

文献1の治療器具に、同一の技術分野に属する文献3に記載された軸方向に往復振動 運動を加える振動付与機構を具備する技術を適用することは、当業者にとって容易であ

請求の範囲9は、文献1、2、3及び文献4により進歩性を有しない。

文献1の治療器具に、同一の技術分野に属する文献4に記載された切除部材に饒而什 上げ加工をする技術を適用することは、当業者にとって容易である。

請求の範囲10,16は、文献1,2,3及び文献5により進歩性を有しない。 文献1の治療器具に、同一の技術分野に属する文献5に記載されたカッター表面にコ ーティング仕上げをする技術を適用することは、当業者にとって容易である。

国際出願番号 PCT/JP03/12367

VI.	ある種の引用文献			
1.	ある種の公表された文書(PCT規	Rij70. 10)		
	出願番号 特許番号	公知日 (日.月.年)	出願日 (日.月.年)	優先日 (有効な優先権の主要) (日、月、年)
	JP 2003–290239 A 「E, X」	14. 10. 2003	29. 03. 2002	
	'E, A]			
	-			
2.	書面による開示以外の開示(PCT対	見則 70. 9)		
書译	面による開示以外の開示の種類	書面による開示以外の開示の日付 (日.月.年)		開示以外の開示に言及している の日付(日.月.年)
書正	面による開示以外の開示の種類			
書面	可による開示以外の開示の種類			
書面	可による開示以外の関示の種類			
書正	高による開示以外の関示の種類			
書正	高による開示以外の開示の種類			
書面	では、「では、「では、「では、「では、」では、「では、「では、」では、「では、「では、」では、「では、「では、「では、」では、「では、「では、「では、」では、「では、「では、「では、」では、「では、「では、「では、」では、「では、「では、「では、」では、「では、「では、」では、「では、「では、「では、」では、「では、「では、」では、「では、「では、」では、「では、「では、」では、「では、「では、」では、「では、「では、」では、「では、「では、」では、「では、」では、「では、「では、」では、「では、」では、「では、」では、「では、」では、「では、「では、」では、」では、「では、」では、」では、「では、」では、」では、「では、」では、「では、」では、「では、」では、「では、」では、「では、」では、「では、」では、「では、」では、「では、」では、「では、」では、「では、」では、」では、「では、」では、」では、「では、」では、、」では、			
書译 ——	可による開示以外の開示の種類 			
書正	可による開示以外の開示の種類 -			
書正-	おいまる開示以外の開示の種類 			
書正	前による開示以外の開示の種類 			
書面	前による開示以外の開示の種類 			
書面	前による開示以外の開示の種類 			
書品	前による開示以外の開示の種類 			
書画	前による開示以外の開示の種類 			

提出書類の様式及び作成要額について

答弁書及び手統補正書は、特許協力条約に基づく国際出願等に関する法律施行規則第 62 条 (様式第 23) 及び同 規則第31条(様式15)に従って作成して下さい。

を掛けて記載する。 「私名(名名)は、自然人にあっては対象びるを放、名の頭に記憶し、また、強人にあって任えの名称を記載する。 うるてもころの名称を記載する。 うるであり、は、日本語、何息、何思、何材、大字符、字符、何書地、何号」のように詳し、記載するとともに、郵便得多を記載する。 地名前とはるなが以上なるをは、これもの号数又は尖折への翻訳をローマ字を用いて作 878

2.5.7 (2) 1個題」は、出版人又は代表者がその個品である間の関本を影像する。 「位置」は、出版人又は代表者がその居住者である間の関本を影像する。 「住置」は、出版人又は代表では、特殊子長を対策さる目の個本を影像する。 関本を影響する場合においては、特殊子長を対策さる図の条件を日本版及び実際により 表示する。 「代理人」の優には、その氏名の記載に合わせて、その氏名の前に「非難士」、「非理士 」又は「独定代理人」のうち認当するものを記載する。 代理人によるときは本人の印は不要とし、代理人によらないときは「代理人」の機を設け るには及ばない。 ・ 各別版においては、原則として接額、訂正、直ね書を及び行間終入を行ってはならない。 著者皆の関係は、容易に分離し、又はよじ度すことができるように例えばクリップ等を用

てとじる。 「あて名」は出版人、代表者、代理人又は安代収人各人ごとに1つのあて名のみを記憶す

ppdtites (tites ADD) 等 升 拉 457917089899 86 INTERNATION DE 2 出版人 (代表名) 氏名 (名称) あて名 3 (CEL) ILG Simona. 各弁の内容 総付非額の

(MO)

- MON SON MAY LE CONTINUENT SE SEMBLE FRANKEN (MIN SON MELLE CONTINUENT SE SEMBLE SE SE SEMBLE SE SEMBLE SE SEMBLE SE SEMBLE SE SEMBLE SE SEMBLE SE SE

| 祖の釈正による時でに残つく相上月|| とする。 | 担出化は、特許庁務責官が答案書の提出又は相正の機会を付与した場合にあっては当該特許| 毎日記は、特別市が大生からまついな田久に相互い機会を行うした単位にあっては自身特別 所事整度、その他の場合にあっては特別庁長をとする。 「韓正の対象」の機には、「動門の目、川頭人の機」のように接近をする告集名と核正をす。

「特別のの場合」の報信は、「他们のうこ、IMAAの時かからつかから、からない。 「他们の中の一般では、「他们のもう」。 となっていません。 地区の一般では、「他のの中の一般では、 たのの事者、人能をは難しして知ける。 ただし、地区の世界、IMAのの中の一般では、 たのの事者、人能をはまして知ける。 ただし、地区の世界、IMAのの中の一般では、 による中に生まっていません。 は、日本のでは、日本のを実での心でいません。 できることは、「中の一般では、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、 できることは、「中の一般では、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、 のからないで、ことがは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、 日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、 日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、 には、日本のでは、日本のでは、日本のでは、 日本のでは、日本のでは、日本のでは、 日本のでは、日本のでは、日本のでは、 日本のでは、日本のでは、 日本のでは、日本のでは、 日本のでは、日本のでは、 日本のでは、 日本のでは

BROOMER-CAVEERTS SIN HEREING CHROMER CO. SINELEE PROPERTY OF THE CONTROL OF THE C

THE MAY AS A SHORM THE LANGE WITH A THE ASSAULT CORRESPONDED TO LEAST A SHORM THE ASSAULT CORRESPONDED TO LEAST AND A SHORM THE ASSAULT CORRESPONDED TO LEAST AN

「氏色(純粋)」は、自然人にあっては五度となるとは、セン明したいない。 人 に社会の条件を送回する。 「あてお」は、「日本程」の長、何恵、何朴、大字明、字明、何春恵、何号」のように詳し く記載するとともに、影響の号を影響する。 ある君しくは右来又はあて名には、これもの芳奈又は英語への精緻をローマ帝を用いて辞題

02 には及ばない。 1 各別級においては、別別として体帯、訂正、追ね含き及び行例承入を行ってはならな コ級権正行の用級は、客名に分離し、又はとじ点すことができるように何えばクラッ 宇教権上アップロ的は、からにグロット(ハー・ロー)。 いてとじる。 『あて名』は出顧人、代楽者、代理人又は個代理人各人ごとに1つのあて名のみを記載する

・「復代組入」の欄には、その氏名の記象に合わせて、その氏名の前に「弁護士」又は「弁庭 土」のうち満百するものを記録する。 ・ 復代組入によるときは代理人の印は不安とし、復代理人によらないときは「復代理人」の機

ATTACON IS (TO 31 GARAGE) 平 縣 粉 匠 用 特別行政官 (657) (TAPACIT 1 Menuments 2 (出版人 (代級者) 氏名 (名称) あて名 CUE. 植正命令の目代 植正の対象 総付出版のは日